

が ん の 生 存 率

5 年相対生存率

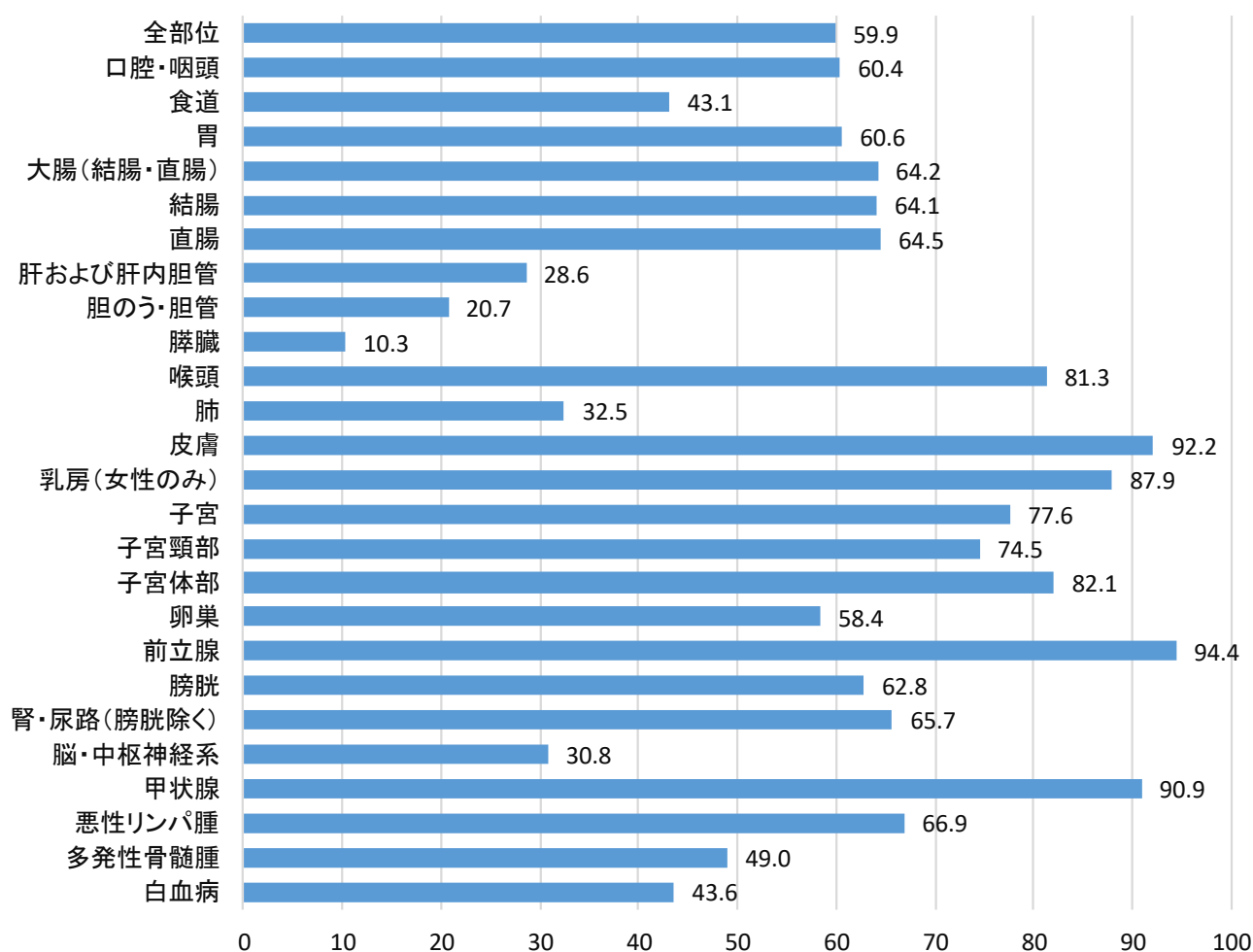
5 年相対生存率の集計は、2020 年の集計とは別に、本標準集計を行った時点で届出から 5 年間経過した罹患症例を対象として行った。

今回の 5 年相対生存率の算定の対象は、2015 年 1 月 1 日から同年 12 月 31 日までに

診断され、届出された症例である。

部位別に見ると、前立腺、皮膚、甲状腺、乳房、子宮体部、喉頭においては比較的高く、膵臓、胆のう・胆管、肝および肝内胆管、脳・中枢神経系、肺においては比較的低い。(図 17)

図 17 部位別 5 年相対生存率 (%) (表 12 から作成)



年 次 推 移

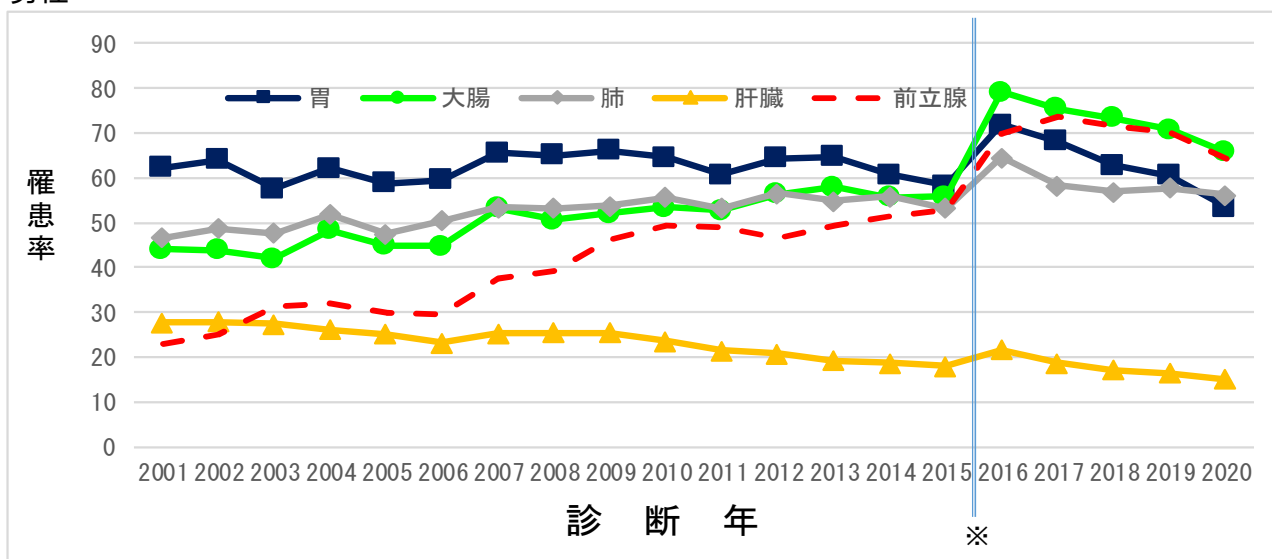
罹患の年次推移

罹患の年次推移は、2020 年の集計とは別に、本集計を行った時点で 2001 年～2020 年の年齢調整罹患率を対象として行った。2001 年～2015 年までの集計で部位別に見ると、男性の肝臓は減少傾向、前立腺、女性の乳房、子宮は増加傾向にある（図 18）。

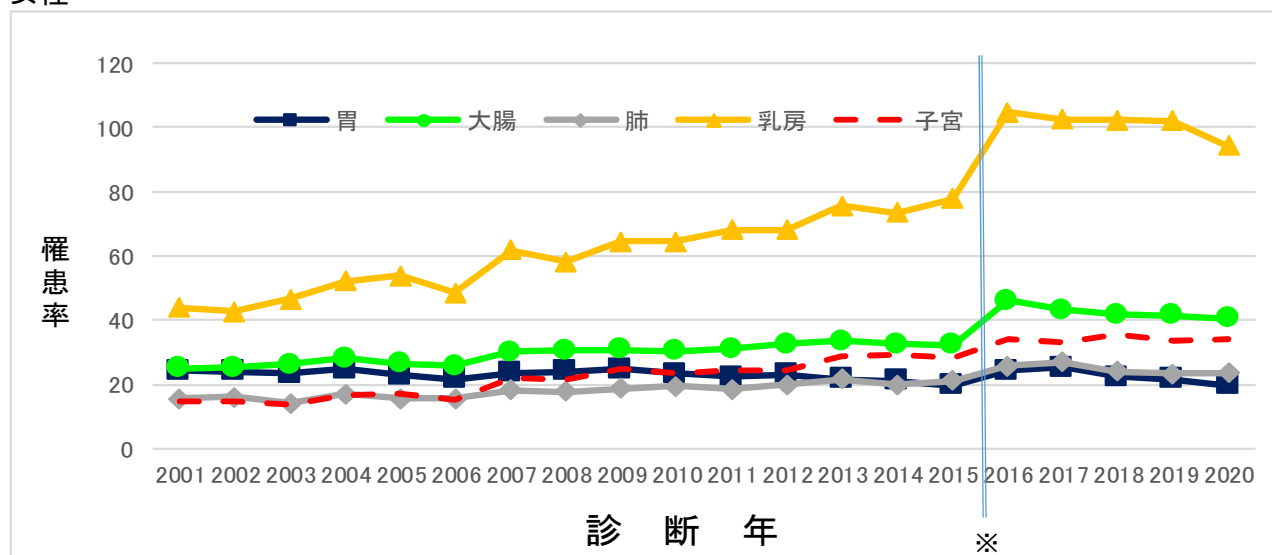
なお、2016 年以降は全国がん登録が開始されたため 2016 年～2020 年の 5 年間の集計では、男性の大腸、前立腺、胃は減少傾向にある。2015 年以前とは直接比較できない。

図 18 部位別年齢調整罹患率：人口 10 万対

男性



女性



※は2015年と2016年の境界線を示す。2016年全国がん登録開始。
2015年以前とは直接比較できない。

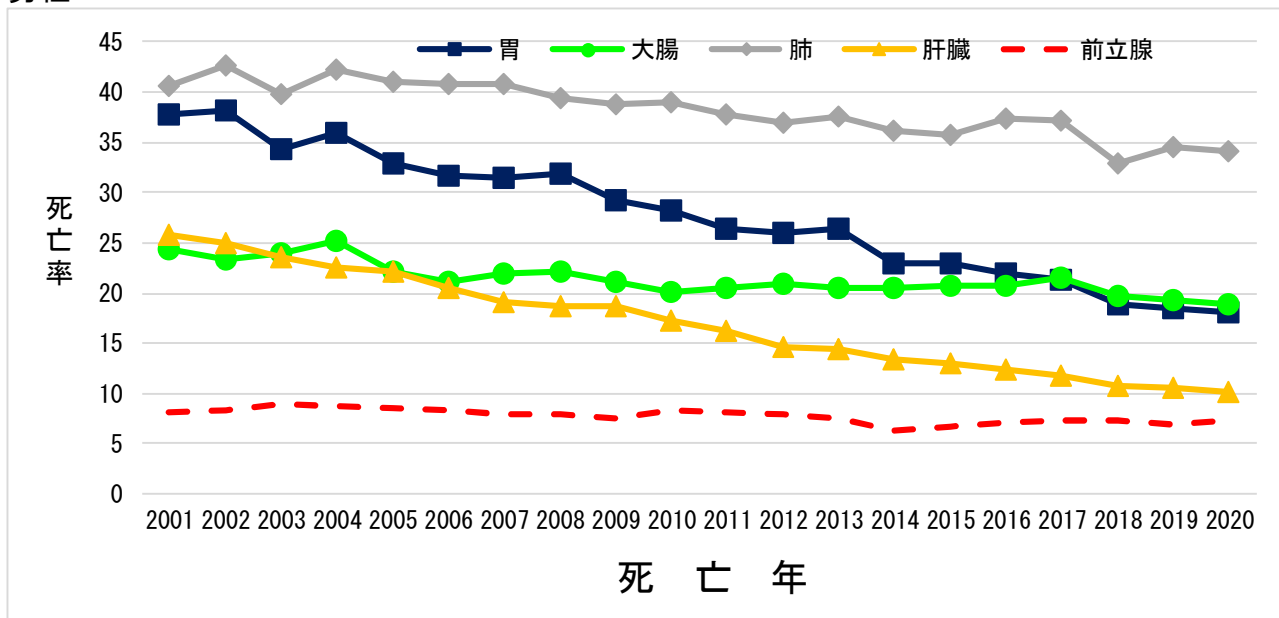
死亡の年次推移

死亡の年次推移は、2020 年の集計とは別に、本標準集計を行った時点で 2001 年～2020 年の年齢調整死亡率を対象として行った。

全体的に減少傾向にあり、男女の胃、男性の肝臓は減少傾向が大きい。また、前立腺、子宮は横ばい傾向にある（図 19）。

図 19 部位別年齢調整死亡率：人口 10 万対

男性



女性

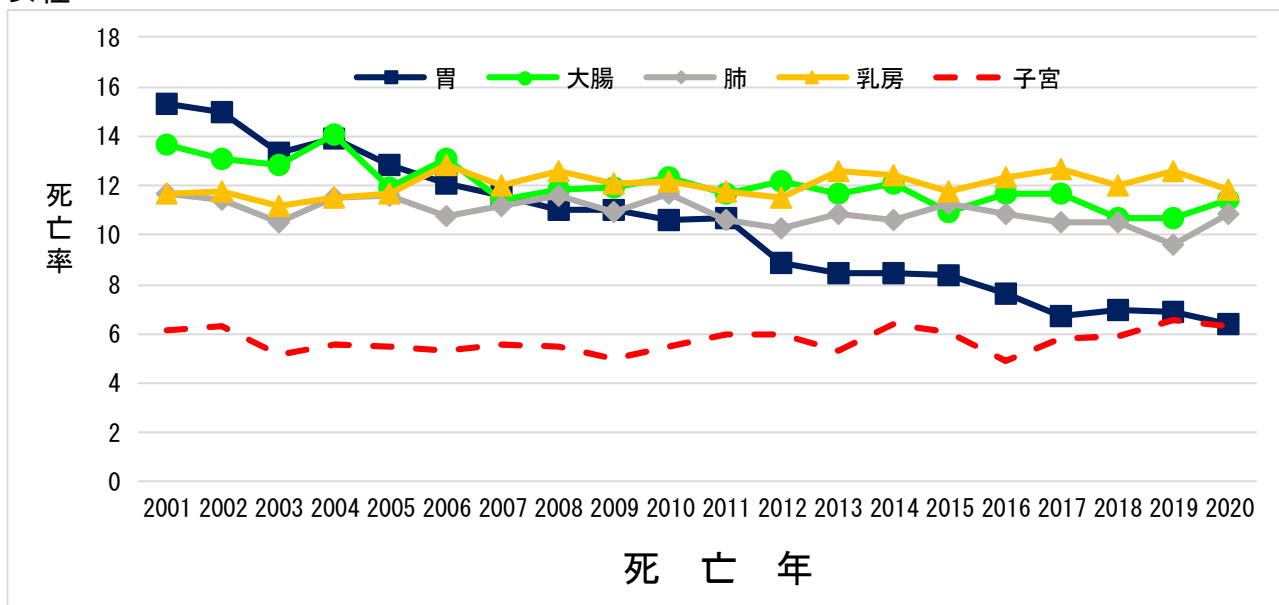
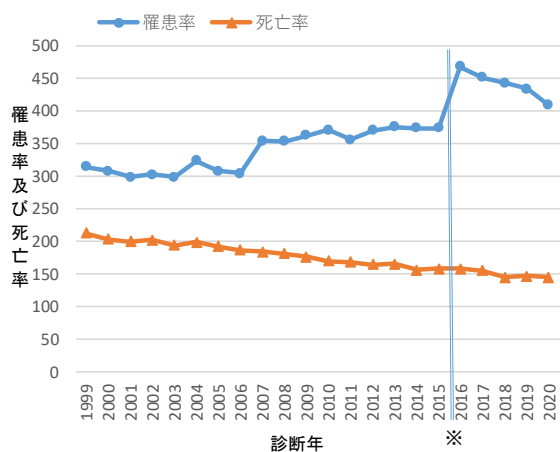
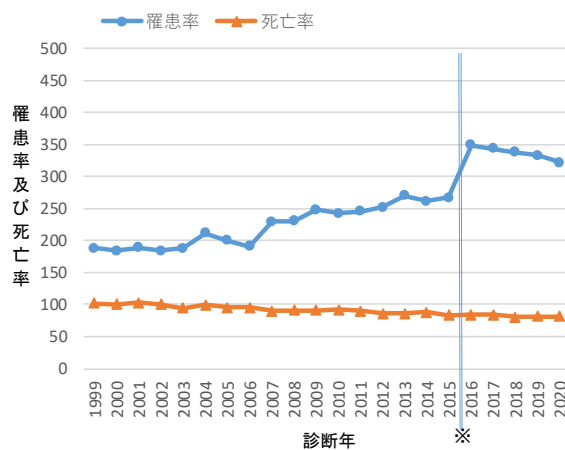


図 20 部位別年齢調整罹患率及び部位別年齢調整死亡率：人口 10 万対

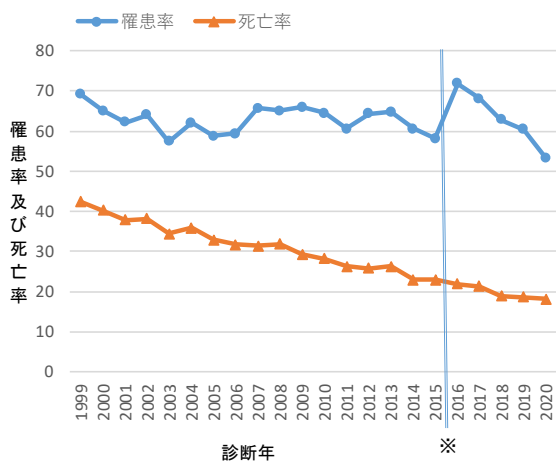
男性 全部位



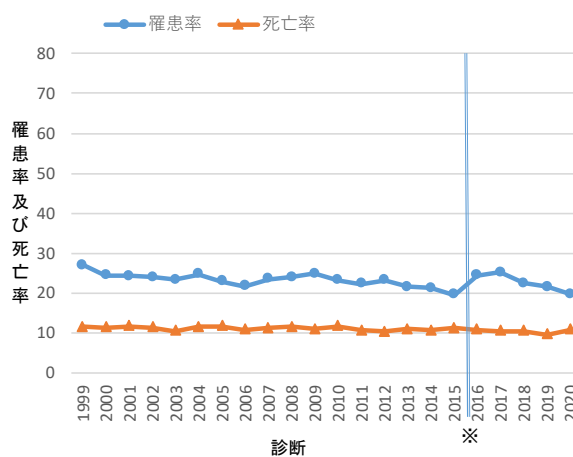
女性 全部位



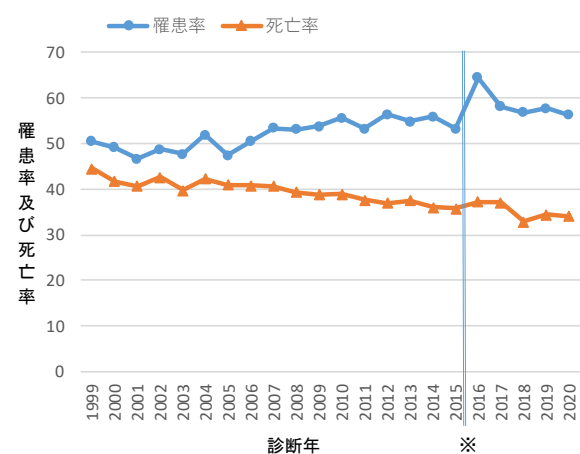
男性 胃



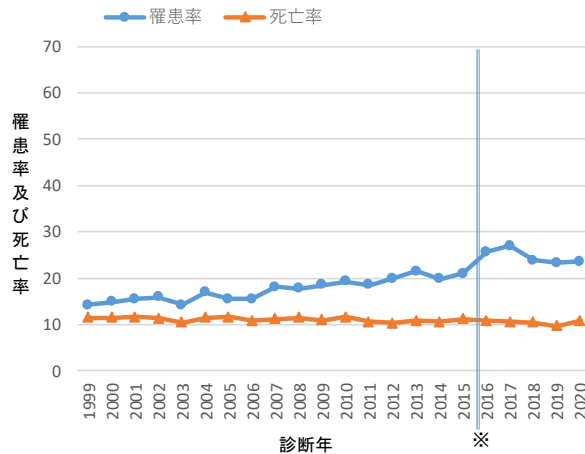
女性 胃



男性 肺

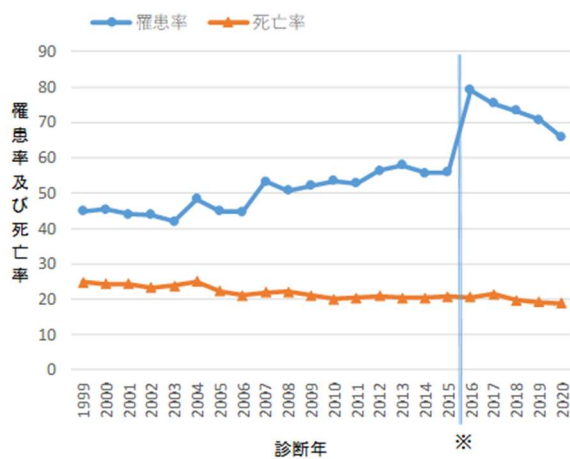


女性 肺

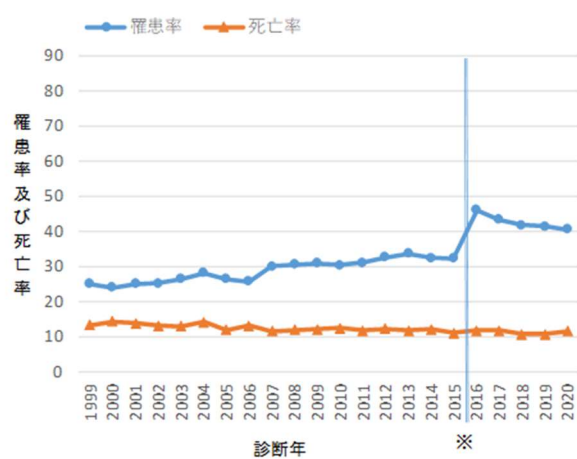


※は 2015 年と 2016 年の境界線を示す。2016 年全国がん登録開始。罹患率においては 2015 年以前と直接比較できない。

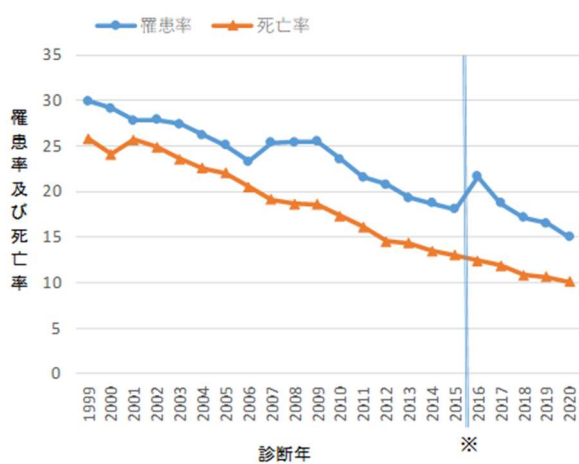
男性 大腸



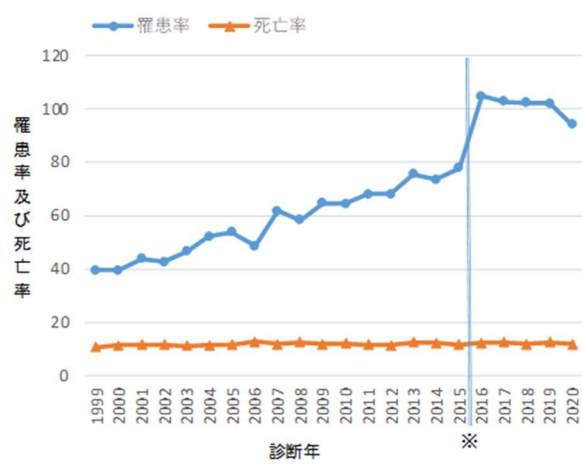
女性 大腸



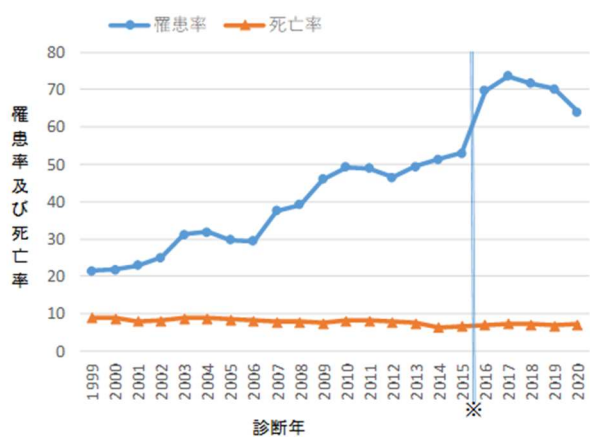
男性 肝臓



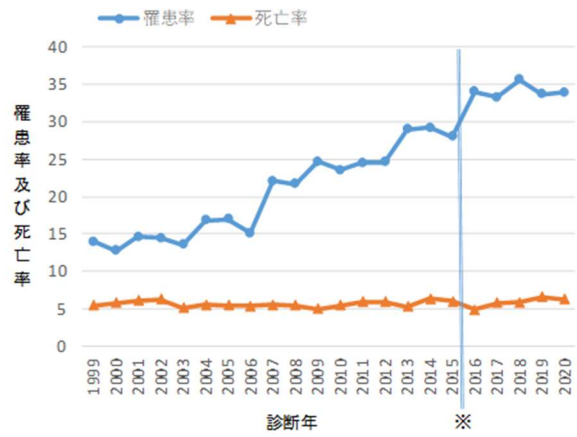
女性 乳房



男性 前立腺



女性 子宮



※は 2015 年と 2016 年の境界線を示す。2016 年全国がん登録開始。罹患率においては 2015 年以前と直接比較できない。